

柏 陵

創立八十五周年記念会報

(第二十八号) 発行に当たり

同窓会長 戸谷 全克
(旧中二十三回・高一回等)



記念すべき年もあと半月で目出度く終焉を迎え、この特別号が会員皆様方のお手元に届く時には、輝かしい新春をそれぞれのご家庭でお迎えの事と存じます。

前号で紹介申し上げましたように、十一月八日、母校体育館で挙行政了しました記念行事は、在校生、教職員、保護者、同窓会員で広い体育館も立錫の余地もない程の盛況の内に幕を閉じる事が出来ました。

特に在校生にとりましては、「講師紹介文」に記載させて頂いた「八十五年の

発行に当たり

歴史と伝統の中で育まれた多くの俊才の中から、お越しいたお二方の学問に対する意欲、芸術に対する感受性を肌で感じとって戴けたものと思っております。ところで、この記念号では母校を巣立ち、それぞれの分野で素晴らしい活躍をなさってお出でになる、大勢の会員総てにお話を伺いしたいのは山々ですが、紙面の関係がありますので、代表して八名の会員に「思い出話」をお願い申し上げます。また歴代会長のお写真と担当年度の主な事業につきましてでも述べさせて頂きました。振り返ってみますと、私が岡前会長と一緒と同窓会役員としてお世話になった、昭和五十九年(一九八四)六月から今日まで、丸

発行
県立本庄高校同窓会
会長 戸谷全克
事務所 本庄市中央1-7-21
戸谷 八内
TEL0495(22)2008
印刷 (有)本庄孔版社

二十三年の歳月が経ちました。その間、毎月一回の定例役員会を持ち、岡前会長年度で一五回、私の会長年度になりましてからこの十月二回、計二七五回の役員会を開催致しております。

身体には余り自信のない私ですが、会員の温かい支えがあつて、何とか一回の欠席もしないて務める事が出来ました。そこで更に任期の六月までは無欠席で頑張りたいと思っております。

その間、毎月一回の定例役員会を持ち、岡前会長年度で一五回、私の会長年度になりましてからこの十月二回、計二七五回の役員会を開催致しております。



今回は、紙面の関係で母校の現況についての記事が載せる事が出来ませんでした。が、本年度入学希望中学生に向けて作成したPR紙を入手致しましたので、印刷し同封致しました。ご一読下さい。なお、是非母校へのご声援も宜しく御願ひ申し上げます。

歴代会長の足跡

初代・第四代

増沢清茂 (旧中一回)

昭和27・4〜32・5 五年間

昭和44・7〜49・6 五年間

外郭団体としての同窓会を創設。二期目は創立五十周年記念会員名簿の発行。

第二期目は創立五十周年記念会員名簿の発行。

第二代 塩原英雄 (旧中二回)

昭和32・5〜36・6 四年間

校医、執行部の組織作り。

第三代 富澤貞次 (旧中三回)

昭和36・6〜44・7 八年間

校医、執行部の拡大と整備、創立四十周年記念会員名簿の発行。

第五代 持田直次 (旧中七回)

昭和49・6〜59・6 十年間

学校薬剤師、終身会費制度を新設、六十周年事業に募金・記念誌発行に協力、同窓会報創刊号の発行。

第六代 岡 祐孝 (旧中九回)

昭和59・6〜平成6・6 十年間

校医、同窓会スローガンの作成、月例役員会の設定・定例会報発行、七十周年記念事業実行委員長。

第七代 戸谷全克 (旧中二三回・高一)

平成6・6〜現在 十四年間

六代岡会長の下、会計を務め、七十周年では募金・建設委員長。

八十周年記念事業実行委員長。

祝本庄高校85周年 記念によせて

矢代 登
(旧中七回卒)



本庄高校85周年おめでとうございます。

私は本中第七回の卒業生です。学校へ入学した時は全てが新しく、特に寄宿舎とその奥はほとんど原野のようでした。

学校の特長は勉強もさる事ながら作業教育といっていました。特に自転車通学の者は、途中で河原に降り石砂をつめて学校に行き作業の時間に集会場等をコンクリートにしました。

学校に愛着があると共に本館と理科棟の間にある七相園は私達第七回卒の作った庭です。生徒集会所のコンクリートも私達第七回生が作りしました。今思うと本中は勉強もよくしましたが労働もよくした私達の学校でした。私は大沢村(旧)でしたから片道五十分かかりました。その間英単語を

カードにして自転車の往復で勉強しました。カードは五千枚出来ました。私は又剣道部員として夏休みの合宿群馬県への遠征に参加し、充実した中学生生活の出来たことを感謝しております。只今私は九十三歳です。学校も八十五周年、九十年、九十五年、百周年とますます発展してゆかれる事を楽しみにしております。
(元県立浦中校長)



旧本庄高女本館

日々思うこと

河野恵美子
(旧本庄高女十五回卒)



本庄高校創立八十五周年記念おめでとうございませう。大正十三年申子生まれの私は昭和、平成と年を重ね、本年は七度目の干支を迎え八十四歳になります。大正十一年に創立された学校の歩と重なる思いがあります。旧高女を昭和十六年三月に卒業、同年十二月八日、太平洋戦争開戦、戦時中の欠乏生活が続き、華やかな青春もなく、耐えることが身につきました。終戦後、二十五年七月の統合により本庄高校が母校となります。旧本庄高女の校舎の取り壊しを機に設立された若泉会も二十余年を経て一番若い人も七十半ばを過ぎ、

恩師、先輩の皆様、親しかった級友等々、鬼籍に入られた方も大勢になってしまいました。私も残された日々を悔いのないよう過ごしたいと切望しています。本庄市コミュニティ協議会

の運営のお手伝いを少ししています。男性も女性も活き活きと余暇を楽しんでいらっしゃると思います。私も元気をもらって前向きに進みたいと思います。
(本庄市コミュニティ協議会副会長)

思い出のエピソードなど

松本 鶴雄
(元三回卒)



光陰矢の如しで既に半世紀が過ぎた。敗戦後アメリカ占領軍の命令で全国の公立高校に定時制が出来た。一九四九年九月だった。私はすぐ入学し五二年に卒業した。それからだいぶ年月が過ぎた一九七〇年に自分の母校で教えた願望を持って本高の定時制の教員を十年間続けた。

教員であると同時に先輩に当たるので他の先生方の言うことを聞かない、手のかかる生徒も大抵は私が出ると頭を下げた。組合の分会長もやっていたので校長さんたちを吊上げたりし

たこともあって、今は慚愧に耐えない思いだ。

教員室には非常勤講師の詩人で有名だった旧中の卒業生、藤田三郎氏がいた。彼の生家は中山道沿いの近伝で戦前に詩集『観念映画』を出版。社会性ある題材をシニールリアリズムで表現する詩は高く評価された。その藤田さんも川越に越して、間もなく亡くなったそう。思い出せば全てが懐かしい。年をとると全ての過去が美しく見えてくる。
(元日大大学院講師)

母校創立八十五周年に想う

竹並栄一郎
(併中二回卒)



私は終戦の翌年、昭和二十一年四月、旧制本庄中学校最後の入学生となった。

母校はその時代、裸足で校舎の内外を出入りしていたので、別名ニワトリ学校とも呼ばれていた。同級生には西年生まれが多く、この二つに因んで四十二年前に「鶏友会」という同窓会

を充足させた。

以来、毎年一月二日に本庄市内の会場で新年の同窓会を開催し、節目の年には恩師を招待して旧交を温めあっていたが、一昨年四十回を迎えたのを機にひと休みすることになった。

現在は有志でゴルフや旅行を楽しんでいる。十年ほど前の会合の時に、坂本見一君から、毎年全英オープンゴルフが開催されるセントアンドリュースでプレーをしてみたいと、夢のような話があり、それを実現できたことは素晴らしい思い出となっている。

私が今日あるのも、厳しい時代の中で進学させて戴いた両親のお陰と共に、旧制本庄中学校及び日本大学に学び、多くの諸先生、諸先輩、友人のご指導ご協力を賜り、衷心より感謝いたしております。

このご恩に対して、些かなりともお役に立てればと願ひ、長年に亘って同窓会役員を務め、協力させて頂いていきます。これからも母校の発展と共に、名声を高める優秀な人材が輩出されることを祈念申し上げます。
(竹並建設(株)取締役相談役)

きょうが

一番若い日

黒澤信男
(高一回卒)



雪景を主題とした作品を手がけるようになってから三十余年がたちます。子どもたちが小学生の頃、せがまれて家族を冬休みに信州菅平のゲレンデへ連れ出した頃から、私の絵には盛んに雪景が登場します。妻や子どもたちがスキーに興じている間に、私はキャンパスを担いであちこち取材して廻っていました。雪景の美しさもさる事ながら、雪の中で現場写生する厳しさや酔いしれる感覚もあったようです。油絵で寒気を受けながら描いたと思われる画家の作品に出会ったことがあった。ならば私が——という気負いからも知れませんが、これは本格的に雪景色にのめり込むきっかけになりました。

とまれ、モチーフ「雪景」は興味津々。描き込む程にやりたいことが次々に出て来ます。自覚症状もないままに今年も喜寿、健康に感謝、日暮れて道通しの感否めないけれど、今日がこれから先の人生では一番若い日だと自分に言い聞かせています。いい仕事をしたと思います。

有り難い体験

北沢文武
(高五回卒)



(写真風景画の第一人者) 長い間、同窓会や愛校心には関心もなく過ごしてきたが、先年一見玉飛行場哀史」を文芸社から出版したところ、勤労動員で建設に携わった世代の方々から、「本庄中学校、第何回卒業生の何某ですが、」で始まるお手紙や電話を、何通もいただいた。

同窓の縁

福島 巖
(高八回卒)



創立三十周年年明けの春本庄高校に入学した第八期生の私達は母校をこく当り前に地域の伝統校として受け止め、先輩方の積んできた実績や伝説、又名物先生のエピソードまでを一種の誇りとして引き継いだものでした。振り返れば早五十五年が経ち、母校八十五歳私達は七十歳の古希を迎えました。卒業後の五十有余年、母校との距離は離れたり近づいたり年代や仕事などで様々でしたが、思いもかけない所で母校を同じくするめぐり会いは多くあり人生を豊かにしてくれました。ことに五十歳を越えたあたりからは仕事や社会活動など活動領域の広がりと共に先輩方のお引き立ても多く伝統校の有り難さを感じます。年齢を重ねると昔を懐かしむ傾向は自然でしょうが、数年前から私達八期生は有志による同期会旅行をしています。現在八十名程のメンバーによる宿泊旅行は五十年の時を超えて青春を甦らせこれも母校のお陰と感謝しております。

青春の一ページ

星野陽子
(高二十一回卒)



本庄高校有難う(創立八十五周年おめでとう) (前本庄市教育長) ささいな事で笑いあい、始めて知った恋に戸惑い、夢と現実の間で心ゆれていたあの頃、私の大切な青春の一ページは、間違いなく本高の古い校舎とセーラー服の胸の中にしまい込まれて四十年という歳月をいつきに飛び越え、普段は思い出す事もあまりない懐かしい古い記憶をたどってみました。前校長の菅谷先生、初めての担任は私達でした。先生も若くともなっていて、私達も青くともなっていました。心がとけあつてつながつていくのに少々時間がかかりましたが、大変だった分、一番心に残っている先生です。考古学の研修でヨーロッパへ行った先生を羽田まで迎えに行つたのは二十歳の頃でした。ドアが開いて私達の姿を見つけた先生の



現本庄高校

恥ずかしそうで嬉しそうに顔が思い出されます。楽しい事、悩んだ事、沢山あった私の輝かしい青春時代は今も私を支えてくれている基盤の一つです。本庄高校創立八十五周年おめでとうございます。益々の発展をお祈りいたします。(安養院寺族)

回顧と展望

国谷敏朗

(旧中十七回卒)



創立八十五周年に際し...

おります。学校周辺の道路...

学率も年々向上しませんが...

も彼等には馬耳東風であ...



85周年記念集会

平成20年度 本部・支部役員

Table with 3 columns: Position, Name, and Branch/Grade. Lists members for various roles like 会長, 副会長, etc.